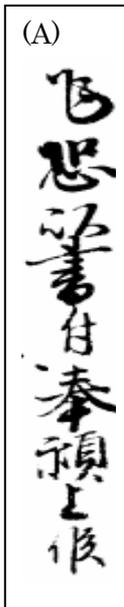


文章を読む 1

いよいよ古文書を読んでいきましょう。まず、全体の感じをつかんでもらうために、右に小さく載せました。



さて、まず(A)の部分です。部分的には読めない字はあると思いますが、前回やった“よくある言い回し”で「乍恐以書付奉願上候」です。

次に(B)ですが、最初の **御** はこの(B)の中だけで

ももう1回登場します。5文字目の **影** です。両

方を参考に考えると「御」という字だとわかります。このようにわからない字があったときは、同じ文章の他の部分に出てこないか探すのも有効な方法です。

家と**様**は余り崩されていないので、「家」「様」とわかるでしょう。次の **以** は少し読みにくいので、飛ばしましょう。**以**の次は「書」なので、その次の**書**に行きましょう。**書**の傍の **付** の部分は、例えば「頭」は **頭** という崩し方をし

ますから、「頁」という字にも見えます。**以**の偏の **以** は、特徴のある崩し方で、その上の「御」と合わせて考えると「願」?となるかもしれません。実は、

この字はかなり高度なのですが、「影」という字です。戻って **以** は **以** と書いてあるように見えますが、**以** と左側に1つ点(汚れ?)のようなものがついています。これは(A)にも **以** と出てきた「以」という字です。(B)のここまでをまとめると「御家様以御影」となります。最初にやった(A)で「乍恐以書付奉願上候」の「以書付」を「書付を以って」と読むことを思い出すと、「以御影」は「御影を以って」と読むことがわかります。

次は「家」、次の **名** も「名」と読めるでしょう。次の **相** は「相」。問題は

次の **書** です。偏の **書** は糸偏か人偏か、傍の **書** は **土** の部分が「土」、下の **書** の部分は「欠」「貝」?という感じでしょうか。これは「賣」(売)という字です。

読売新聞のタイトルは「読賣新聞」となっています。したがって **書** は「続」。

最後の **仕** は「仕」ですから、「相続仕」(相続つかまつり)となります。(B)を全部まとめると「御家様以御影家名相続仕」(御家様お影をもって家名相続つかまつり)となります。

